

令和5年度 研究の推進について

R05.04.03 全校教育研究会

令和4年度までの研究の経緯

【学習指導要領（平成29年告示）】

研究情報 P.1

「生きる力」を育むために

子供たちの学びはどう進化するの？

主体的・対話的で深い学び

(アクティブ・ラーニング)

の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業を改善します。



一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」と思える授業に

見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業に



周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業に

自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業に

カリキュラム・マネジメント

を確立して教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ります。



学校教育の効果を実証して改善する



教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる



地域と連携し、よりよい学校教育を目指す

学んだことを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力、人間性など



実際の社会や生活で生きて働く
知識及び技能

未知の状況にも対応できる
思考力、判断力、表現力など

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、**三つの力をバランスよく**育みます。

令和4年度までの研究の経緯

【学習指導要領（平成29年告示）】

研究情報 P.1

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の
新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「**アクティブ・ラーニング**」）の視点からの学習過程の改善

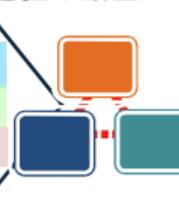
生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

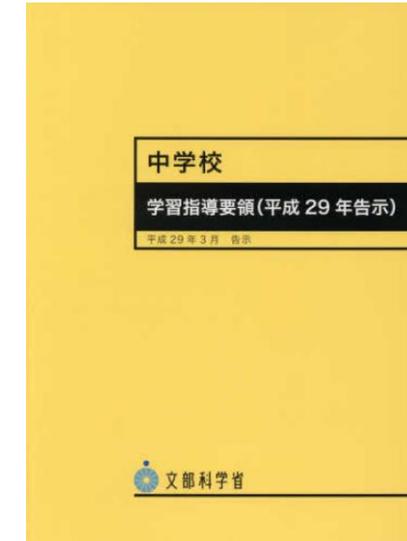
主体的な学び

対話的な学び

深い学び



※高校教育については、些末な事象的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。



中学校学習指導要領を
どう具現するか



附属長野中学校の
研究の核

【令和元年度～令和2年度の研究】

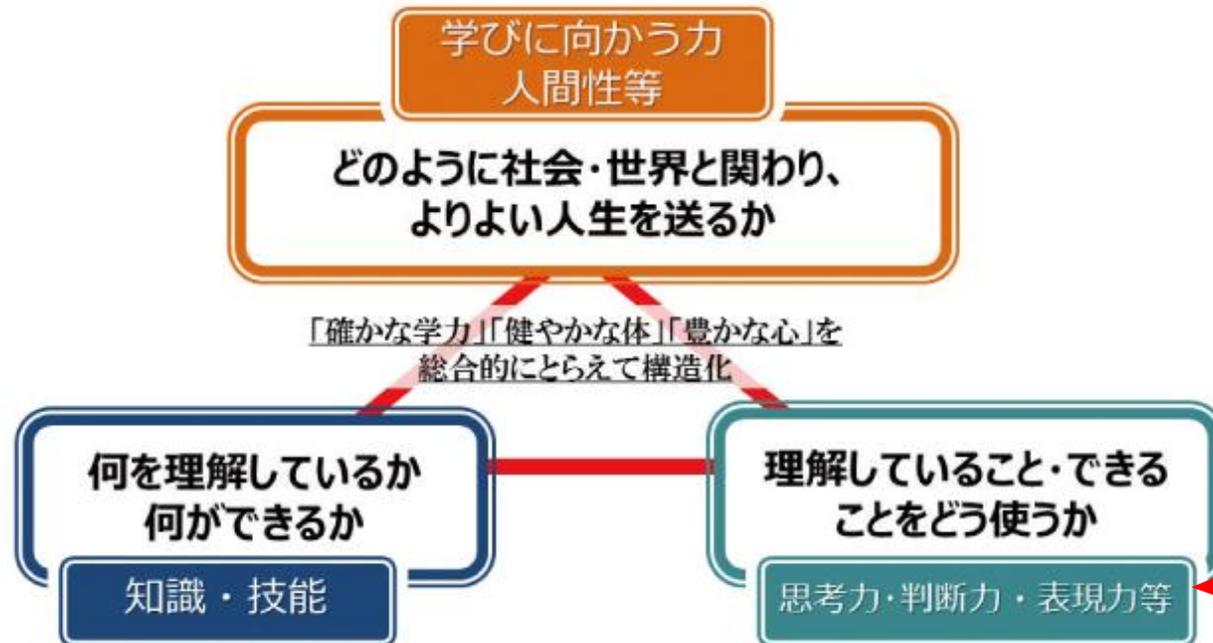
研究情報 P.1

研究主題

本質に迫る教科学習の在り方

— 問題発見・解決の過程における生徒の姿に焦点を当てて —

育成すべき資質・能力の三つの柱



教科の本質から、学びの本質へと対象を拡げていくことを視野に入れ、各教科等の本質に迫る学習を目指すことによって、「問題発見・解決能力」の育成を図った

「思考力・判断力・表現力等」に焦点をあてた研究を実践

令和4年度までの研究の経緯

【令和3年度～令和4年度の研究】

研究情報 P.1

目指す生徒の姿 学びを拓いていく生徒

<学びを拓いていく生徒の捉え>

- ① 各教科等の資質・能力を身に付けていく生徒
- ② ①を踏まえて、身に付けた資質・能力を他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく生徒

【教科等の本質】 各教科等の資質・能力を身に付けていくこと

【学びの本質】 各教科等の枠を超えて、自ら「見方・考え方」を働かせて、物事を問い続けたり、追究したりして学び続けていくこと

**全校研究
テーマ** 学びの本質に迫る学習の在り方

「各教科等の本質」
を目指す中で「**学び
の本質**」が生まれる

令和4年度までの研究の経緯

研究情報 P.2

目指す生徒の姿 **学びを拓いていく生徒**

【教科等の本質】 各教科等の資質・能力を身に付けていくこと

【学びの本質】 各教科等の枠を超えて、自ら「見方・考え方」を働かせて、物事を問い続けたり、追究したりして学び続けていくこと

全校研究テーマ **学びの本質に迫る学習の在り方（2年次）**

研究の重点1

問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるようにする

研究の重点2

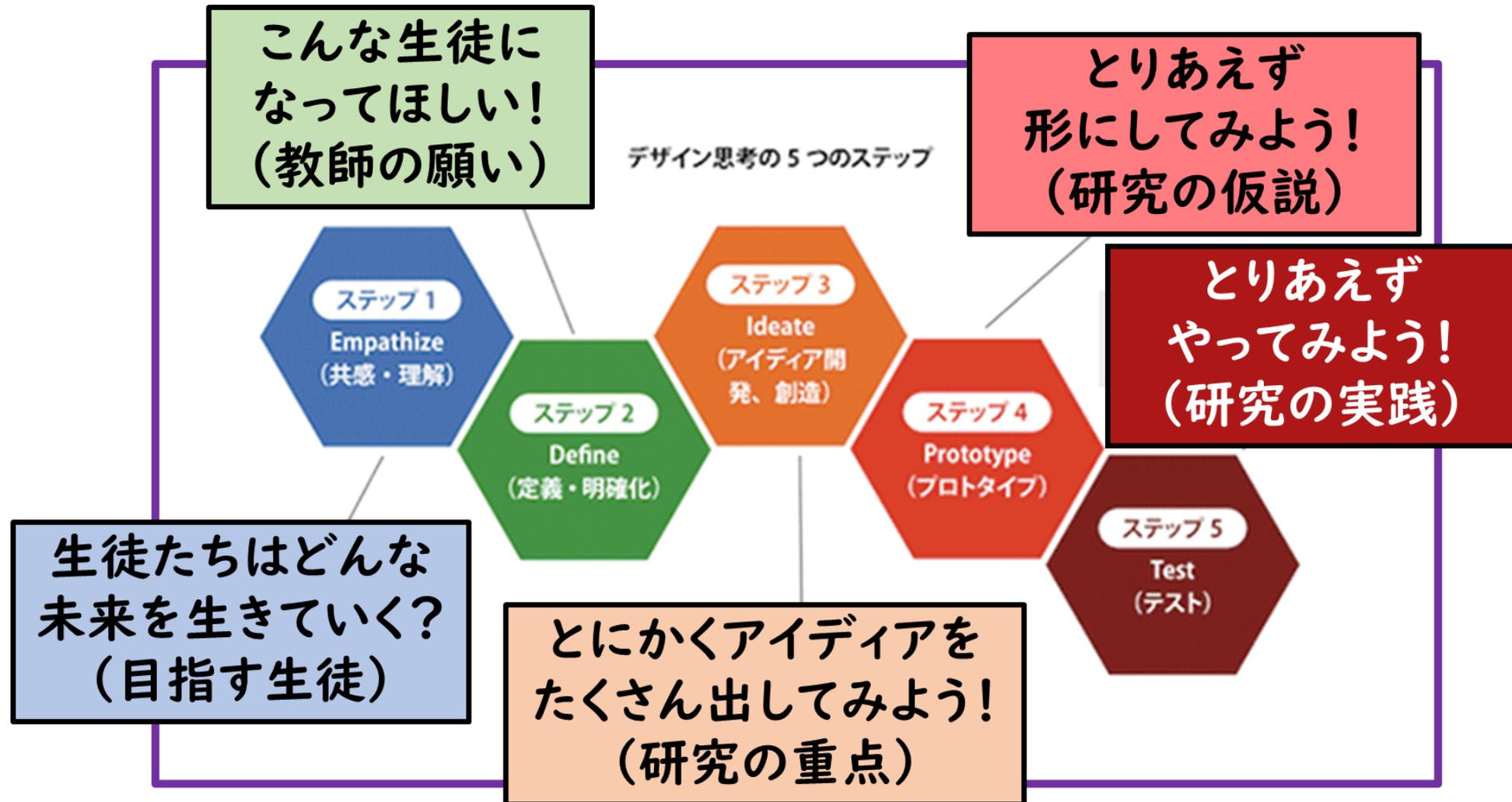
学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする

成果 多くの生徒から、各教科等の「見方・考え方」を働かせながら各教科等の資質・能力を身に付け、それを他に生かしたり、新たに見いだした課題を解決しようとしたりしながら学び続けていく姿が見られた

課題 生徒が、これからの社会を生きる自分とかわらせながら、学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することが十分にできていない

令和5年度の研究の方向性

【デザイン思考で考える】



【目指す生徒の姿を据える】

< 中学校学習指導要領 前文より引用 >

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

令和4年度の課題として見いだされた生徒の姿と重なる

様々な社会変化を乗り越えた持続可能な社会を目指して、豊かな人生を創造していこうとするために、自分のよさや可能性を認識するとともに、他者を尊重し、多様な他者と協働しながら学べる生徒

目指す生徒の姿

豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

【全校研究テーマを据える】

研究情報 P.2

目指す生徒の姿

豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

「新たな価値を創造できる資質・能力」が育成されている

「各教科等で育成を目指す資質・能力」を土台とした資質・能力

ア 問題発見・解決能力 (各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと)

イ 批判的思考力 (多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと)

ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力

(自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとする事)

キャリア教育とSTEAM教育を視野に入れた、
「キャリア×STEAM」の学習という新たな学びによって育成できる

全校研究
テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

令和5年度の研究の方向性

目指す生徒の姿 豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

本校で育成を目指す“新たな価値を創造できる資質・能力”

「各教科等で育成を目指す資質・能力」を土台とした資質・能力

ア 問題発見・解決能力 (各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと)

イ 批判的思考力 (多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと)

ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力
(自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとする事)

【教科等の本質】 各教科等の資質・能力を身に付けていくこと

【学びの本質】 各教科等の枠を超えて、自ら「見方・考え方」を働かせて、物事を問い続けたり、追究したりして学び続けていくこと

全校研究
テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

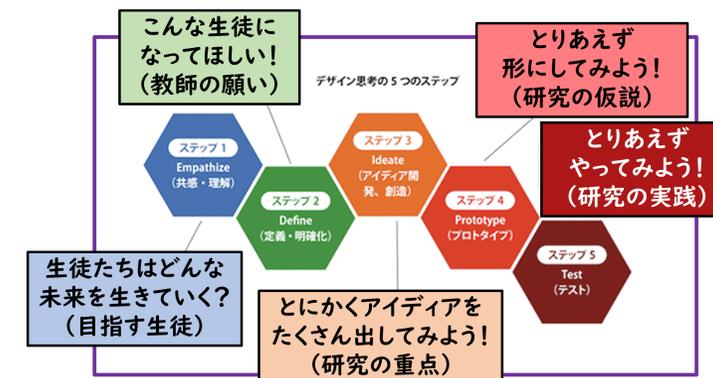
研究の重点1 (【教科等の本質】に迫るために)

問題発見・解決の過程において、各教科等の「見方・考え方」を働かせ、学んでいることや学んだことの意味や価値を自覚することができるようにする

研究の重点2 (【学びの本質】に迫るために)

現代的な諸課題に向かう中で、自分の可能性や価値を認識し、社会に生かそうとすることができるようにする

研究情報 P.3



目指す生徒の姿 豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成するために…
2つの“新しい学び”を創造する！

あさひのユニット

【教科横断型の授業】

社会・数学、音楽・英語など
複数教科による学び
(教科の枠にとらわれない学び)

年3回実施

(5・9・2月に実施予定)

あさひのプロジェクト

【社会参画型の授業】

総合的な学習の時間を
基盤とした探究的な学び
(外部との連携を含む学び)

通年で実施

(長期休み前後に成果発表会を実施)